

指導と評価の年間計画

教科名	地理歴史	科目名	地理 B	学年（文理）	2年（理）	単位数	2
使用教科書	新詳地理B（帝国書院） 詳解現代地図（二宮書店）			補助教材等	新詳地理資料（帝国書院） 岐阜県版コンターワーク（帝国書院）		
目標 【学習指導要領】	現代世界の地理的事象を系統的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を培うとともに、地理的な見方や考え方を養い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。						
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導の上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・世界的な視野に立って地形・気候等の自然現象、産業や民族などの人々の活動などの地域的分布を捉え、その特徴や広がり、関連性について考察する。 ・人文地理的な現象について、人々の生活と社会・環境の関連性について考え、都市や集落、農村などとの関わりについての理解を深める。 ・知識定着の際はできるだけ関連付けて「知識連鎖」で身に付けさせる。 ・グラフ・統計の分析を通じて地理的な技能及び応用力を育成する。 ・世界の新しい動きを捉え、世界の諸課題について積極的に考える力を養う。 ・インターネットやコンピュータなどの機器を活用する実践力を養う。 						

月	単元名	帝国書院 地理B	時	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
4月	第1章 自然環境と生活 第1節 生活の舞台としての地形	地理の授業について 自然と地形 世界の自然	4	世界各地、及び日本の各地の地形の成立について、時期・要因等を考察し、人間が生きる上での地球環境の重要性を理解する。また、地形図の読図の基本を習得する。	プリント確認 行動観察 小テスト
5月	第2節 世界の地形環境	世界の小地形 日本の地形環境 コンターワークによる読図演習 一次テスト	5	大地形を作る力、小地形を作る力について、共通なもの、異なるものなどを考え、各地の生活状況についても考察する。また、日本の特異性についても理解を深める。 コンターワークの作業を通じて地形を多層的に見る力を養成する。	行動観察 プリント確認 小テスト 一次テスト
6月	第3節 気候と生活 第4節 世界の気候	気候要素と気候要因 世界の気候 A気候 B気候 C気候	6	世界の気候の特色について、各種資料を利用して、その差異や人々の生活を理論的に考察する。 気候の差異が生じる要因を理論的に考察する力を養成する。	一次テスト 行動観察 プリント確認 小テスト
7月	第5節 日本の自然の	D気候 E気候 植生 日本の地形環境	4	気候とともに、植生・土壌といった気候と密接につながる地理環境について理解する。	行動観察 ノート確認 小テスト
8月	特徴と人々の生活	読図による地形の理解	2	読図を通して身近な地形への理解を深める。	コンターワークの確認
9月	第2章 資源と産業 第1節 産業の発達と変化	日本の気候環境 日本の知恵期・気候と災害 産業と自然 二次テスト	5	日本の地形・気候の世界各地との共通性及び特異性を認識する。 また、そこから考え得る自然災害の危険性についても理解し、将来のための方策等についても目を向ける。	課題テスト 行動観察 小テスト 二次テスト
10月	第2節 農産物の生産と流通	世界の農業 アジア ヨーロッパ 課題テスト	7	世界の農業と気候の関連性について考えるとともに、グローバル化がもたらした農業の変化、地域格差の拡大、不均衡、そして環境破壊や食の安全についても考察する。	行動観察 課題テスト プリント確認 小テスト
11月		アメリカ・ロシア 中国・オーストラリア 生産と流通	5	同上 資料を活用して農業の実情、変化を読み取る能力を育成する。	行動観察 プリント確認 小テスト
12月	第3節 資源の生産と消費	世界の農林水産業 日本の農林水産業	5	農林水産業が抱える問題点を、グローバルな視点で検証する。 日本の農林水産業を、日常生活での実体験に基づき考える。	課題テスト 行動観察 プリント確認 小テスト 三次テスト
1月	第4節 工業製品の生産と流通	エネルギー・鉱産資源 工業の立地、特色 世界の工業地域 韓国 三次テスト	5	地形環境の学習とリンクさせて、鉱産資源の分布を理解するとともに、鉱産資源の偏在が引き起こす今日的課題についても理解する。 工業の立地から歴史を読み説くことについて触れる。	行動観察 コンターワーク確認 プリント確認 小テスト
2・3月	第4節 工業製品の生産と流通	西アジア EU・ASEAN 中国 極東 世界と日本の産業構造 グローバル化の進展と問題点 四次テスト	6	工業の発展する様子を社会条件や自然条件と関連させて、資料などを基にしてそれぞれの地域での特徴と変化を理解する。	行動観察 プリント確認 四次テスト

合計 54 : 50分換算（70）

単元の指導計画

「農産物の生産と流通」の目標及び評価規準

□**目標** 農産物の生産と流通について、農業地域区分を通して大観し、現代世界の農業の現状と課題及び世界中での日本の農業の課題を考察する。

□**評価規準**

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
農産物の生産と流通について関心を高め、意欲的に取り組むとともに、それらの多様性や地域性を多面的・多角的な視点で捉えようとする。	農産物の生産と流通に関する地理的事象から世界や日本の農業の課題を設定し、それを追究するとともに、系統地理的に捉える視点や方法を考察している。	農産物の生産と流通に関する資料(地図・グラフ等)を、系統地理的に読み取る技能を身に付けるとともに、その結果をまとめ、発表するなどして的確に言語化できる。	農産物の生産と流通の多様性や地域性を農業地域区分などに着目して大観するとともに、そのことを表現するに際して適切な概念を用いることができる。

□**各時間ごとの内容**

(●特に記録を残す評価)

1 世界の農業 【本時】		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
1時間目 ○農業の立地条件としての自然条件 ○農業の立地条件としての社会条件	○地形・気候・土壌等の自然条件を、既習内容を踏まえつつ、考察することができる。また、その結果を的確に表現することができる。 【知】【技】 ○社会条件を、歴史・政治・経済等といった多面的・多角的な視点から考察することができる。また、その結果を的確に表現することができる。 【思】【知】【技】 ○地図や資料を適切に活用することができる。 【技】	○意見交換・発表とプリントへの記入(後者●) ○意見交換・発表とプリントへの記入(後者●) ○プリントへの記入

2 世界の農業地域区分		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
2時間目 ○自給的農業・商業的農業・企業的農業の現況 ○それぞれの農業地域の形成に寄与した自然条件・社会条件	○資料を活用し、農業地域それぞれの諸形態の特色について歴史的経緯も踏まえながら理解することができる。 【知】【思】 ○地図帳を活用し、降水量や土壌等と農業地域の関係について考察することができる。 【技】【思】	●プリントへの記入 ○意見交換・発表とプリントへの記入(後者●)

3 世界の農業地域①(アジア・アフリカ)		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
3時間目 ○モンスーン・アジアの稲作とプランテーション ○西アジア・北アフリカの灌漑・遊牧 ○中南アフリカの焼畑とプランテーション	○資料を多面的・多角的に分析し、それぞれの地域が特徴的な農業(農牧業)形態を有することを考察する。 【思】 ○環境問題との関連など、それぞれの農業地域の抱える課題について、地図や資料を活用しながら考察することができる。また、その結果を的確に表現することができる。 【知】【思】【技】	○プリントへの記入 ○意見交換・発表とプリントへの記入(後者●)

4 世界の農業地域②（ヨーロッパ・ロシア）			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
4 時間 目	<ul style="list-style-type: none"> ○ヨーロッパ農業の発展史 ○西欧主要国の農業 ○ロシア連邦の農業と社会主義 	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史関連資料を活用してヨーロッパの農業の展開について考察を深めることができる。【知】【思】 ○主に地図帳を活用して、西欧主要国における農業地域と自然条件との関連性について考察をすることができる。また、その結果を的確に表現することができる。【知】【思】【技】 	<ul style="list-style-type: none"> ○プリントへの記入・発言 ○意見交換・発表とプリントへの記入（後者●）

5 世界の農業地域③（南北アメリカ・オセアニア）			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
5 時間 目	<ul style="list-style-type: none"> ○アメリカ合衆国の農業の変革と現況 ○ラテンアメリカの農業 ○オーストラリア・ニュージーランドの農牧業 	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史関連資料を活用して南北アメリカの農業の展開について考察を深めることができる。【知】【思】 ○資料を活用して、企業的農業の特色について考察を深めることができる。また、その結果を的確に表現することができる。【知】【思】【技】 ○貿易概況に関する資料を活用しつつ、オセアニアの農牧業の特色を自然条件・社会条件の観点から考察する。【知】【思】 	<ul style="list-style-type: none"> ○プリントへの記入・発言 ○意見交換・発表とプリントへの記入（後者●） ○プリントへの記入

6 現代世界の農業の現状と課題			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
6 時間 目	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバル化の中の世界の農業 ○穀物メジャー ○世界の米と小麦 	<ul style="list-style-type: none"> ○統計資料や地図を活用して、世界の農業の輸出入状況等を確認し、その背景を考察する。【知】【思】【技】 ○出版物等を活用し、実例を通してアグリビジネスの中核を担う穀物メジャーの業務システムを理解する。【知】【思】 ○地図や統計資料を活用し、世界の米と小麦を例に、生産地域の特性や流通上の特徴について考察する。また、その結果を的確に表現することができる。【知】【思】【技】 	<ul style="list-style-type: none"> ○プリントへの記入・発言 ○プリントへの記入 ○意見交換・発表とプリントへの記入（後者●）

7 世界の中の日本の農業			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
7 時間 目	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の農業構造の特徴 ○グローバル化と日本の農業 ○日本の漁業環境 	<ul style="list-style-type: none"> ○地図や資料を活用するとともに、既習事項を確認するなどして日本の農業構造の特徴をその背景とともに考察する。また、その結果を的確に表現することができる。【知】【思】【技】 ○統計資料や地図を活用して、国際的視野からみたときの日本の農業の課題について考察する。【知】【思】 ○統計資料を活用するなどして、国際的視点から日本の漁業環境の特徴と課題を考察する。【知】【思】 	<ul style="list-style-type: none"> ○意見交換・発表とプリントへの記入（後者●） ○プリントへの記入・発言 ○プリントへの記入・発言

単元「世界の農業 ―世界の農業の分布―」の目標及び評価規準

□目標 地域によって異なる農業地域が分布することを理解させるとともに、その立地条件を自然環境・社会環境の二つの側面から考察させる。

□評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<p>農業立地に関わる諸条件を考察する際に、関心と課題意識をもって学習に取り組むとともに、多面的・多角的な視点や方法を身に付けようとしている。</p> <p>特に話合いの時間に発言したり、人の話をよく聞くなど主体的な参加をしている。</p>	<p>農業立地に関わる諸条件を考察するに当たり、特に社会条件として歴史的に捉えることの重要性に気付くとともに、現代の農業をめぐる諸課題を設定し、追究することができる。</p> <p>自然条件を考察するに際し、「自然と生活」に関わる既習内容を活用し、系統的に捉える視点や方法を考察している。</p>	<p>「地図帳」や「資料集」、「コンターワーク」、実物資料などの教材を活用し、必要な情報を的確に読み取るることができる。</p> <p>仮説の検証結果を、論拠を明らかにしつつ簡潔明瞭に文章表現することができる。</p>	<p>農業立地に関わる基本的な概念を理解するとともに、それらを用いて自然条件や社会条件について多角的な観点から文章化することができる。</p> <p>農業の立地条件を考察する際に、既習内容の事柄についての的確に応用することができる。</p>

学 習 指 導 案

教科(科目)	地理歴史科(地理B)	単元名	農産物の生産と流通
教科書	新詳地理B(帝国書院) 詳解現代地図(二宮書店)	副教材	新詳地理資料(帝国書院)、新詳世界史図説(浜島書店)、岐阜県版コンターワーク(帝国書院)、プリント、実物資料
本時主題	世界の農業の立地条件		
本時の目標	<p>◎農業の立地条件を自然環境・社会環境の二つの側面からの確に表現することができる。【関】【思】【知】</p> <p>・自然条件については「自然環境と生活」に関する既習内容を踏まえた考察することができる。また、社会条件については歴史的な考察を含めた多面的・多角的な視点から考察することができる。 【関】【思】【知】</p> <p>・地図や図表を用いた作業が的確にでき、そのことを基にした考察ができる。 【関】【思】【知】</p> <p>※【関】＝関心・意欲・態度 【思】＝思考・判断・表現 【知】＝知識・理解 【技】＝技能</p>		
工夫した点	<p>・新学習指導要領において強調されている言語活動の充実について、地図やグラフの読み取り、歴史的背景の考察の際などに取り入れたこと。</p> <p>・地理歴史科を構成する科目として、世界史との相互関連に留意したこと。</p>		
指導の内容・ねらい	学 習 内 容	指導上の留意点・観点別評価	
<p>・新しい単元「農産物の生産と流通」の導入となるよう、身近な話題を取り上げる。</p> <p>・農業の始まりについて簡単に解説しておく。</p> <p>・本時のMQを提示すると同時に、本時の目標を提示する。</p> <p>・MQに対する仮説を立てさせ、プリントに記入させる。</p> <p>・自然条件について解説、確認する。</p>	<p>Q1 例えばバナナや、ジャガイモ、トマトはどこが原産地だと思いますか？</p> <p>○4大農耕文化とその伝播について復習する。</p> <p>○参考までに、原産地では遺伝子の多様性が見られることを写真で紹介する。</p> <p>MQ 農業を成り立たせる条件としてはどのようなものが考えられるでしょうか？</p> <p>本時の目標 ◎農業の立地にはどのような条件があるのかを的確に表現できる。</p> <p>○グループを編成して意見交換する。</p> <p>○①主な作物の栽培限界に関する地図に目を通すとともに、②ホームセンターで購入できる野菜のタネの包装の裏面の記載事項も参考としながら考察することによって仮説の検証を行う。</p> <p>○気候(気温：特に積算温度、降水量)・地形・土壌の3項目について学習していく。なお、ここでは既習内容との関わりの下で理解することが重要であるため、次のQ2・Q3の確認を合わせて行うこととする。</p> <p>○主な作物の栽培限界について、教員の説明を受け、その特徴をプリントの地図上に書き込む。</p> <p>○主な作物の気候適合具合について確認する。</p>	<p>○Q1に対し、指名して答えさせる。 【関】</p> <p>○4大農耕文化については、1年次に学習した現代社会の既習事項であるため、指名して答えさせることはするが、プリントで簡単に確認するにとどめる。【知】</p> <p>○遺伝子の多様性については、教科書p7で確認する。</p> <p>○MQについて、自分の考えやグループのメンバーの考え(仮説)をプリントに記入させる。一部発表させ、板書する。</p> <p><評価方法> 【関】【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いへの参加度合 ・プリントの記入 <p>○Q1を踏まえると、生徒の意見としては気温や降水量といった気候要素のみ提示する可能性が高い。このため、それらを包括する概念が自然条件であることに気付かせる。</p> <p>○この時点で社会条件に関する意見が出された場合には、その意見を大切にしつつ、授業の後半で生かせるよう板書等を工夫する。</p> <p>○気候について学習する際には、先ほど触れた主な作物の栽培限界について更に補足説明を加える。</p> <p>○主な作物の気候適合具合については、プリントで確認する。【知】</p>	

<ul style="list-style-type: none"> • Q 4 に対する仮説を立てさせ、プリントに記入させる。 • Q 4 に対する仮説の検証をする。 (※) • 農業の立地条件が自然条件のみではないことに気付かせる。 • 社会条件について、条件項目や内容を解説、確認する。 • 学習のまとめをする。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>Q 2 地形：稲作・畑作に適している地形を考えてみよう。</p> <p>Q 3 土壌：ウクライナから西シベリア、あるいは北米の小麦産地に見られる土壌は何と呼ばれていましたか？</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>Q 4 アフリカのセネガルにおいては、従来行われていた主食となる穀物の栽培が現在は余り行われておらず、落花生の栽培に傾いているのはなぜでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「世界の農林水産」(FAO 日本事務所、2008年春号)及び外務省のHPをプリントアウトしたものを活用する。 ○グループで意見交換する。 ○仮説の検証に際しては「世界史図説」を活用し、セネガルの農業の現況の背景には植民地化された歴史があることを確認する。 ○「プランテーション」や「モノカルチャー経済」について、その概念を簡単に学習する。 ○その他、社会条件を構成する要素として、経済的条件や政治的条件などが加わることを学習する。 <p>○MQを考察することを通して、本時の目標をどの程度達成できたのかを自己確認するため、理解できたことや感想等を端的に文章でまとめてみる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○Q 2については、教科書 p 18～19 のイラストを参照させる。その際、コンターワーク p 15～16 も併せて参照させる（なお、ここでは当該ページは既習内容である）。 ○Q 3については、地図帳 p 16、p 29 を活用して確認させる。 ○自分の考えやグループのメンバーの考えをプリントに記入させ、その後、一部発表させる。 <p><評価方法> 【関】【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いへの参加度合 ・プリントの記入 <ul style="list-style-type: none"> ○配付資料には様々な情報が掲載されているため、注目したい情報については教師が指示をする。 ○植民地化という歴史的な背景に気付け、外務省HPの記載内容から読み取れる内容や、「世界史図説」を(※)の検証用に活用する。 ○プリントのまとめの欄を活用して記述させ、授業後に提出させる。 <p><評価方法> 【関】【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントの記入
--	--	---

2年 組 番 氏名

【2】農業の立地条件 (1) 自然条件

①気候

a. 気温

- ・発芽には (1)) 以上 & 生育には (2)) 以上
- ・(3) / 積算気温 () =栽培期間中 (作物の生育期間中) の毎日の平均気温の総和 ex. 稲 → 2400℃ 以上

b. 降水量

- ・年降水量 (目安) (4) mm (5) mm (6) mm (7) mm
- 牧畜 | 畑作 | 稲作

稲	<ul style="list-style-type: none"> ・積算温度 = 2400℃ 以上 (※生育期：月平均 17~18℃以上) ・年降水量 = (6) mm 以上 ⇒ 高温多雨
小麦	<ul style="list-style-type: none"> ・積算温度 = 1900℃ 以上 (※生育期：月平均 14℃程度) ・年降水量 = (7) mm が適当 ⇒ (8))
9	<ul style="list-style-type: none"> ・年平均気温 = 25℃ 以上 ・年降水量 = 2500mm 以上 ⇒ 年中高温多雨
13	<ul style="list-style-type: none"> ・年平均気温 = 16℃~22℃ 以上 ・年降水量 = 1000mm~3000mm (※成長期：高温多雨) ・強い直射日光を嫌う
綿花	<ul style="list-style-type: none"> ・(※生育期：月平均 18℃程度) ・年降水量 = 500mm~750mm (※収穫期：乾燥) ・(11)) 期間 = 300 日以上

【主な作物と気候の適合】(およその目安)

	A	B	C	D	E	F
稲	○		○			
天然ゴム	○					・年降水量 1000mm 以上 ・年降水量 500mm~1000mm 適
コーヒ	○					
綿花						
トウモロコシ	○			○		・日本... ・日本... ・日本...
バナナ	○					

【作物の栽培限界】

資料

②地形

- a. (12)) etc... 稲作に適する
- b. (13)) etc... 畑作 "
- c. 平田地が栽培地か... 特に傾斜地の場合は (14)) の防止が必要 ex. 段々畑、(15)) (注米)

③土壌... 特定の作物の生育に適する土壌がある

16	ウクライナやロシア南部	小麦
17	北米大陸 (ミシシッピ川流域~ロッキー山脈東部)	小麦 (トウモロコシ、大豆)
18	インドのデカン高原	綿花
19	ブラジル高原南部	コーヒー

2年 組 番 氏名

【2】農業の立地条件 (2) 社会条件

人間の側の知識や工夫、技術や制度 (← 1 観点で捉える必要性)

農作物の種類や経営形態、経営規模などを左右



【問】アフリカの①セネガルでは、19世紀半ばまでは盛んに行われていた主食のミレット栽培が、その後あまり行われなくなった。代わって落花生栽培が盛んとなり、現在もその状態は基本的にはあまり変わっていない。②20世紀以降、主食の1つは現在のゲエトナムやカンボジアなどから輸入されるコムとなり、人々はピーナッツを売ってコムを買うようになった。
 (1) 下線部①の背景には何があるのか。
 (2) 下線部②の背景には何があるのか。

資料

※ 押さえておきたい用語

2	農産物や獣産物などの一次産品の1つ、あるいはごく少数の品物の生産や輸出に大きく依存する経済
3	自給作物の売却、商品として市場に出荷することを目的として栽培される農作物
4	世界市場に向けて大規模に商品作物(現金作物)を単一耕作()する農業

資料

社会条件を構成する下位条件

- ①文化の発達
 - ・品種改良、農業の機械化、化学肥料の使用 etc.
 - ex. カナダで栽培されている耐寒品種小麦 (= ())

- ②市場との関係
 - ・市場との距離によって農業経営の分布が変化
 - 【例】 ex. 市場との距離によって農産物の輸送費が変わる。

- ・交通の発達具合も影響
- ③労働力と経営規模との関係
 - ・ () = 狭い農地に多くの人手や資本 (機械、肥料、農業 etc.) をかける。
 - ⇔ ()

- ④政治的な条件
 - 【例】
 - ・旧社会主義国にみられた計画経済のもとでの農業の集団化 (ソ連、中国)
 - ・特定農産物の生産調整 … ex. 日本の稲作調整 (減反政策)

授業の事後分析

1 授業者の反省

(1) 総括的には、限られた時間内に多くの「情報」を与えすぎてしまい、学習内容が散漫になってしまった。加えて時間的にも余裕のないものとなったため、本時の眼目と位置付ける内容に十分な時間を当てることができなかった。また、生徒の主体的な学習活動を上手に導くことができたかという観点からみても反省点の多い授業であった。

(2) 具体的には、次のような点である。

①本時は単元「世界の農業」全体の導入授業でもあるため、最初から世界を対象とするのではなく、授業の導入として、日本や岐阜県の産業別人口の割合を確認させ、ごく簡単にグラフ化させる作業を行わせてみた。しかし、予想以上に時間を費やすこととなった。当初は授業開始から数分で完了するものと予想していたが、実際には10分以上を要してしまった。

(※掲載した学習指導案等は、この実践を生かし、この活動を省略しています。)

②本時の授業では、農業立地上の自然条件及び社会条件を考えさせる際にグループを編成させ、お互いに意見交換をする中で考察を深めることを活動上の柱としていた。しかし前者については、生徒は「気候」や「降水量」といった単語をプリントに記すにとどまり、意見交換という状態までには至らなかった。その結果、生徒の発表も単調なものに終わってしまった。この日、生徒は消極的な姿勢で授業に臨んでいたわけではない。したがって問題は、グループ活動をする題材として果たして適切であったか、あるいは、適切であったとして授業での取上げ方や授業者の働きかけが妥当だったかということになる。また後者（社会条件の考察）については、歴史的観点の重要性を認識させたいという本時の授業のねらいもあって本来十分に時間を掛けたい部分であったが、時間不足となってしまった。

2 研究協議の結果

(1) 生徒は65分間を通じ集中して取り組んでいたと思う。また、机間指導の際に個々の生徒の様子をよく観察しており、丁寧な支援がなされていた。

(2) 本時の目標は授業の前段で明確に示されており、その点はよかったように思う。

(3) 農業立地を規定する条件として自然条件と社会条件があるということを生徒自らが析出できるよう授業を組み立てると、より興味深い授業になったように思われる。そのためには「自然条件」という概念を最初から提示するのではなく、生徒に自由に仮説を立てさせ、その検証を通して、提出された諸々の仮説（条件）が二つに類型化されるという具合に授業展開をすることが考えられる。

(※このことを参考に、MQの設定の仕方をはじめ、掲載したプリントは授業当初のものから改編しています。)

(4) 大きく二つのことを考えさせられた。第一に、グループ活動の必然性やタイミングについてである。必然性は扱う題材に関わる。またタイミングというのは、授業展開のどの時点で導入するかということでもあるが、例えば一人で考察する時間を一定時間与え、その後でグループ討議をさせる活動の場合、その活動が適切かどうかということでもある。第二に、資料の提示の仕方や活用法についてである。今回の授業では生徒に提示される資料が多すぎた感があるが、例えば一連の資料を生徒に配布するとき、一括して配布するとよいのか、それとも必要とするタイミングで順次配布するとよいのか。また、資料中の着目すべき点を教員側から指示するのか、それとも多様な情報を盛り込んだ資料を提示し、その中から必要な情報を見出させようとするのか。指示してから資料を読ませると、一通り読ませてから指示を与えるのでは意味合いが異なってくる。今後、これらの点について授業の目的や時間等も勘案しながら考えていく必要がある。